

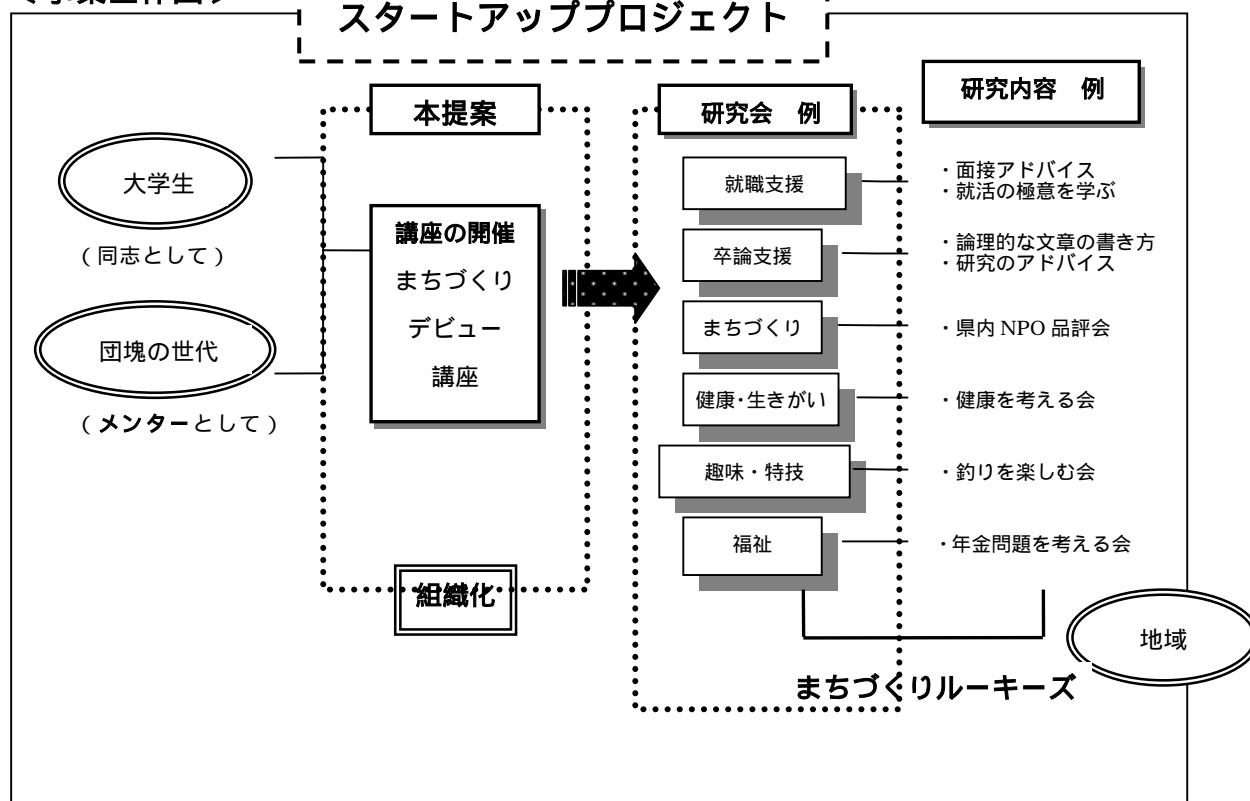
2	提案名 団塊の世代と大学生のきずなによるまちづくりデビュー ～まちづくりルーキーズのスタートアッププロジェクト～	提案団体名	
		代表者氏名	所属
		宇都宮大学協働のまちづくり研究チーム	
		對馬 葵	宇都宮大学 教育学部
		指導教員氏名	廣瀬 隆人

1. 提案の要旨

【目標】

共に地域から遠い存在である団塊の世代と大学生に着目したこの事業は、“団塊の世代と大学生”・“団塊の世代と地域”・“大学生と地域”の3つのきずなをキーコンセプトとしている。団塊の世代と大学生が共に学習し、宇都宮を学ぶことによって、お互いを知り、認め合い、まちづくりの課題を発見し、新たな絆を形成する。(本提案では、まちづくりを目指す団塊の世代と大学生を『まちづくりルーキーズ』と名付ける。)団塊の世代と大学生のためのまちづくりデビュー講座の開催が、宇都宮のまち全体を多種多様なネットワークに包まれる状態を創りだすきっかけをつくる。

〔事業全体図〕



メンター (Mentor) とは、教育者と学習者との関係の1つでもあり、助言者と友人が組み合わさったものと考えられている。パトリア・A・クラントン『おとなの学びを拓く 自己決定と意識変容をめざして』鳳書房 2005年 P.118

【現状と課題】

団塊の世代と大学生に関する現状

- ・ 地域の人たち同士のつながりが希薄になっている（文献 より）
- ・ 団塊の世代と大学生は共に地域とのつながりが希薄である
- ・ 宇都宮市においても団塊の世代の大量退職者が急増する（2007年～2009年）
- ・ 宇都宮市では、団塊の世代の大量退職について意識しているが、現状としては平成19年度予算に盛り込む予定で、まだ検討段階である（文献 より）
- ・ 宇都宮市内の生涯学習センターでは、平成18年度団塊の世代を対象とした講座はない
- ・ 団塊世代と大学生は、地域活動をする機会が少ない（アンケート調査より）
- ・ 地域の活動に取り組みたいと思っている人は多いが、きっかけを得ることができないでいる（文献 より）

文献 『平成16年版 国民生活白書』内閣府 2004年 P.101～103

文献 『平成15年度 国民生活選好度調査』内閣府 2003年 P.5,10

文献 『地方行財政調査資料 第6096号』（社）地方行財政調査会 2005年 P.13

文献 『実年期（高齢期に向けた準備期）における学習・社会参加活動の実態及び意向に関する調査研究』（財）日本余暇文化振興会 2005年 P.20～24

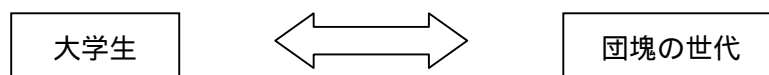
課題

- ・ 地域に関心を持ち、地域活動をするきっかけづくりとなる学習機会やしぐみが必要ではないか
- ・ 地域デビューが団塊の世代を中心に指摘されているが、同時に大学生もまちづくりへの参加によって第2のふるさとを創るという意義がある。そこで両者が協働することで新しいきずなが生まれるのではないか

【施策事業の提案】

団塊の世代と大学生のきずなによるまちづくりデビュー講座

今回提案するのは、まちづくりルーキーズのスタートアッププロジェクトの、団塊の世代と大学生の協働に着目したまちづくりデビュー講座の学習プログラムである。(社会教育の事業と大学の授業の共同実施) 団塊の世代と大学生に着目した理由は、両者にはつぎのような共通点を挙げることができるからである。団塊の世代と大学生を、『まちづくりルーキーズ』と名付ける。ここで、両者の共通点と相違点を挙げてみよう。



共通点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を構成する一員でありながら、地域活動から最も遠い存在である ・閉鎖的な社会関係を持つ <ul style="list-style-type: none"> □ 大学生：家族、友人、学校 □ 団塊の世代：家族、友人、職場 ・大学生は学校社会、団塊の世代は学校社会 + 企業（会社）社会で培われたバックグラウンドしかない
-----	--

	大学生	団塊の世代
個性	<ul style="list-style-type: none"> ・価値観の多様性 ・不況の中で育つが物資は豊か ・雇用の柔軟化、不安定 ・スターは身近な存在 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争と物資不足を知らない最初の日本人 ・価値観の変更を知らない世代 ・経済成長の中で育つ ・終身雇用の職縁社会 ・スター不在（従順で集团的）
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・若い力 ・柔軟な発想力 ・時間 ・行動力 	<ul style="list-style-type: none"> ・40年のキャリア ・組織から必要とされてきたという強い思い ・合理的なものの考え方 ・時間、お金、知恵
不足しているニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・社会へ出るための予備知識、マナー ・意欲的に行動する力 ・コミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人との関わり方を知りたい ・どうすれば地域活動に参加できるのか ・自分はまだやれる（必要とされたい気持ち） ・きっかけ

参考文献：堺屋太一『団塊の世代黄金の10年が始まる』文藝春秋 2005年

2. 提案の目標

- ・お互いに地域活動と疎遠な団塊の世代と大学生が共に学ぶことによって、価値観の多様性に気づき、相互に受容し、まちづくりの同志を得ることによって、地域活動への参画を容易にする
- ・大学生にとってかけがえのないもうひとつのふるさと = “宇都宮” にする
- ・この活動を通して、団塊の世代や大学生が地域の住民とのネットワークづくりの大切さに気づく
- ・両者が地域のネットワークをつくっていく（地域のみんなが顔見知りの関係づくり）